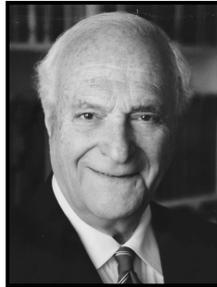


名誉会員追悼



故 名誉会員 John Joseph Jonas 君

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、カナダ John Joseph Jonas 教授は、2025年2月3日ご逝去されました。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

Jonas 教授は、1932年カナダのモントリオールに生まれ、1954年に McGill 大学金属工学科を卒業後、イギリスに留学し University of Cambridge 大学院機械科学専攻科で1960年に Ph.D を取得後直ちに McGill 大学金属工学講師に採用され、1965年助教授、1973年教授に昇格されました。1985年からカナダ鉄鋼協会 (CSIRA) と自然科学評議会 (NSERC) 支援の鉄鋼プロセッシングセンター教授として、また10年間以上に亘り所長並びに McGill 大学金属プロセッシングセンターの共同所長を歴任されました。

Jonas 教授は、鉄鋼を含む金属材料の強度、破壊、成形、加工特性からの材料組織形成の予測と制御に関連した広範囲な分野を研究対象としており、特に高温加工の分野では学問的だけでなく、工業的応用性の高い新事実の解明と新知見を多数発表し続け、この分野の世界的リーダーとして活発に活動されました。まず、高温加工下の力学特性、微視組織の展開、変形能、破壊、不安定変形などの諸現象の解明に精力的に取り組み、経験的現場的技術の領域であった高温加工に対して学問的基盤を与え、その体系化を進められました。鉄鋼技術関連では、オーステナイト領域の力学特性、動的再結晶、相変態などの基礎的研究から、低炭素高張力鋼の高温加工とその熱処理原理の解明並びにその実用化に関する研究から、冷間、熱間圧延下の集合組織の形成原理、その再結晶、相変態集合組織に及ぼす影響などに関して精力的に研究を進められ、その成果を微視組織の予測制御の知見と結合させて、鉄鋼製品の材質向上の実現を目指されました。以上の研究成果は800編以上の論文として公表されました。

また、日本の大学、企業から多くの研究者、技術者を受け入れ、彼らの研究指導を通してわが国の鉄鋼技術の発展に多大な貢献をされました。1985年に開催された日本・カナダ鉄鋼技術会議でも指導的立場で参加し、会議の成功に寄与されました。

これらの業績により、1982年 Charles Hatchett Award (イギリス鉄鋼協会)、1983年 Gold Medal (カナダ金属物理学会)、1989、1996年 Michel Tenebaum Award (アメリカ鉄鋼協会)、1991年 Grande Medail (フランス金属学会最高賞)、1993年 The Order of Canada (カナダ勲章)、1995年 Prix Quebec (ケベック科学アカデミー)、1998年 Barrett Silver Medal (ASM) や、2000年 Killam Award (カナダ評議会)、Humboldt Research Award (ドイツ)、Réaumur and Gold Medals (フランス金属学会)、2017年 Acta Materialia Gold Medal など世界各国より数々の栄誉を受けておられます。本会関連では、世界で4回開催された IF Steels に関する国際会議をはじめ、種々の国際会議の招待講演や ISIJ Inter. の Advisory Board を勤め、ISIJ Inter. に65件もの論文を発表し、澤村論文賞を2回受賞され、2000年に名誉会員に推挙されました。

氏の鉄鋼技術、学術分野への多大なご業績と、本会の発展になされたご貢献を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和7年5月

日本鉄鋼協会 会長 藤田 展弘